

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人 南郷福祉会		
事業所名	グループホーム みのりの家	ユニット名すずらん棟	
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成 22年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ファミリーディや夏祭り、敬老式典、忘年会等への参加のお誘いを積極的に行っている。行事後の食事会では、職員手作りの料理を用意し、利用者と家族の団欒に好評を得ており、参加者数も増えている。 ・法人でISOを取得し、各種のマニュアルやアンケートの実施で、より良いサービスの質の向上に努めている。 ・同施設内には病院があり、利用者や家族にも安心して頂いている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年4月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧南郷町の町民有志が創設した(社福)南郷福祉会が、5番目の事業所として当ホームを開設した。事業運営はその開設の経緯が示す通り、地域社会とは密接な関係を保っている。同敷地内にある美里町立南郷病院は、入居者の健康の支えであり、家族の安心でもある。さらに最近、無償で町から町有地のハウス畑の提供を受け、入居者と職員が協働で白菜やさつま芋などの野菜づくりに励んでいる。そのことが入居者の健康維持や職員との対話の機会の増加となり、さらには新鮮な食材の収穫と摂取は、入居者の楽しみと喜びになっている。入居者が自己表出の機会として町民文化祭に自分たちの作品を出展している。法人全体としてISO9001:2008(国際標準化機構の品質管理08年度版)を継続的に取得している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみのりの家)「ユニット名 すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、その理念を共有して実践につなげている。	本年2月に、ホームのすべての職員で話し合っ「地域生活の継続と地域社会との関係の強化」をうたった、独自の新しい「理念」を策定している。日々のサービスの提供に当たっては、その理念を活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域社会の行事には入居者が参加し法人主催の夏祭りには、地域住民が参加している。ボランティアの方々も地域の方であり交流がはかられている。	入居者が近くの幼稚園や小学校、高等学校、町内会の行事などに参加し、ホームの行事に幼稚園児や児童生徒、地元の住民の方々が参加している。年に3、4回発行している法人の広報紙「いなほ」を旧南郷町の全世帯に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトで老人クラブでの認知症について講話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や利用者やサービスの状況、外部評価の結果明らかになった課題について報告している。市町村職員や地域包括支援センター職員等が参加した会議を年4回以上開催している。	会議を過去1年に4回開催している(いずれの会議にも町職員が参加)。会議は、ホームからの事業の報告や施策の提起と参加者(入居者の家族を含む)からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営し、サービスの向上に活かしている。	会議は2か月に1回以上(年に6回以上)開催して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談する事があれば話し合いや相談する機会を持っている。改装や補助金の点でも話し合い相談している。	行政担当者と常に話し合いや相談の機会を持っている。最近では増築(8床x2ユニットから9床x2ユニットへの拡張)や防火用スプリンクラーの設置に係る助成について相談している。近在の老人の救急避難所に指定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、玄関の施錠については職員体制で入居者が外出した場合直ちに対応出来ない場合に、かぎを掛けているがそれ以外は掛けないように取り組んでいる。	すべての職員が『身体拘束ゼロの手引き』を理解し、実践している。しかし、敷地の外側近くにあるすずらん棟は、職員が入浴介助などで入居者の見守りが手薄になる、午後の時間帯だけは玄関にかぎを掛けている。	すずらん棟の近くには、用水路や道路などの危険な場所があり、安全確保のために「施錠」しているが、その時間帯は職員の工夫と努力で遥かに短くなっている。今後も努力を続けて頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講習会で学んだ事を内部研修で他の職員に共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を個々に必要としている利用者は現在いないが必要性が出た場合、支援出来るよう学ぶ機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居時説明し同意得ている。介護報酬等改定があった場合は家族に文書で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の集いや家族アンケート送付して意見や要望を伺っている。	家族会はないが、家族同志の交流を兼ねた集いを年に3回開催して意見を聞いたり、家族を対象にアンケートを実施して希望や意見を聞いたりしている。アンケートの結果からは家族と職員間の意思疎通のよさがうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ISO会議等で職員の提案等聞く機会を設けている。例) 改装における要望等	全体会議などで職員の意見を聞き、事業の運営に役立てている。職員から改装に関して、相談室の洋式化やサンルームの設置などの提案が寄せられている。国家資格の取得者には手当の増給がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得すると資格手当がついたり等、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を多く確保していただき、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と交流する機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを中心に入居初期においては可能な限り多くの時間を割いて利用者から聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の入居初期においてはケアマネが可能な限り、多くの時間を割いて利用者の家族と連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及びその家族に対し必要に応じ適切な情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で本人のできることを見極めて、できる事はしていただき又、職員一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊状況によって通院や受診又、行事への参加等、家族の方々にも支援をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の協力もいただいて外出や外泊し関係が途切れない様支援に努めている。	職員は本人がこれまでに培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、本人が知人や友人、商店などつきあいを続けられるように支援している。外出や外泊、行事への参加などに家族の協力がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者各人が入居者同士交流が持てるような雰囲気になる様時間や空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了のほとんどが死亡によるもので終了後は相談に来所する家族もいないが必要性に応じてフォローしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションで本人の思いや希望を把握したり、出来ない場合は本人に今何が必要か検討している。	職員は本人が入居する前に、必ず自宅を訪問して「実態調査」を実施し、本人の思いや暮らし方、希望や意向の把握に努めている。また、本人との意思疎通が困難な場合には家族などを交えて、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時に情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランチェック表や記録等に個々が目を通し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集した後、家族や医師、地域包括に相談しながら意見交換し現状にあった計画を作成している。	「実態調査」や入居後に収集した情報を元に、本人の介護に関わってきたホーム以外の関係者の意見も取り入れ、すべての職員で話し合っ介護計画を作成している。介護計画は個人別課題別に毎日チェックし、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やスタッフ間の申し送りで行って来た事やどうしたら良いかアドバイスをしたり、もったりしてモニタリングに生かし計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネがサービスの調整を行い本人や家族の状況に合ったサービスを提供したり、情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力病院への通院介助や町所有のハウスを借用(無料)し、野菜作りを行い皆で食べて楽しむことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の定期受診や往診時主治医への相談や報告を必要時に行い、適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関への月に一度の定期通院で、日頃の健康状態を把握してもらい、必要な医療行為を受けている。また、他の専門病院とも良好な関係を築いている。非常勤の看護師にも日々の状態を報告し、相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を報告相談と定期受診や随時必要時の受診の支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時に医師や家族、ケアマネが同席し相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に当事業所として、できることの説明を行っている。又著しくADL等が低下した際、家族等と話し合いを持ち今後について決めている。	このホームは入居者が重体に陥ったり、終末期を迎える場合の方針(関係書類を含む)を成文化している。しかし、臨終期には医師の指示で隣接する病院に搬送しているの、職員は「最期の看取り」を経験したことがない。	取り組みの一層の前進を、心から期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受けている。発生時に対応し実践力をつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や防火設備会社の方の立ち会いのもと、防災訓練を実施している。併設施設との応援要請の体制もあり。	災害対策マニュアルを作成して職員に周知徹底している。地域住民に参加を呼びかけ、併設施設と合同で年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。非常用食糧と飲料水、非常用備品及び生活用水を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や家族が不快に思わない様な言葉かけや対応を行っている。	職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の了解を得て居室に出入りしている。職員の言葉かけ、接遇態度などは適切であり、入居者はのびやかに過ごしている。個人の記録やメモなどは人目につかないように保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴等以外は本人が自由に過ごせる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きや状態を観て安全面に配慮しながら本人が自由に過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院への外出や出張理容での身だしなみや日々の整容介助又、自分で着る物の選択等、その人らしい身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら盛り付けや洗いもの、洗濯たたみ等職員と一緒にしている。又、食事も職員と一緒に食べている。	職員は入居者の力を活かしながら、一緒に買い物、下ごしらえ、調理、後片付けを行っている。食事には旬のもの、新鮮なもの、入居者の嗜好も取り入れて提供している。入居者と職員が同じ食卓で、同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のたてた献立を参考にしている。入居者の状態に応じて、刻み食やおかゆ等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時に本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者各人の状態に応じ、可能な限りトイレでの排泄を行うように支援を行っている。	排泄点検表などを利用して入居者の排泄の仕方を把握し、個別に適切な誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。おむつの着用者はいないし、自立排泄の度合いが高くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食材に食物繊維を多く含む物を用いたり、毎日の水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者が快適に入浴できるよう時間を選んで入浴してもらっている。	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みに合わせて、毎日でも入浴できるように支援している(毎日入浴している人がいる)。一番風呂、熱い湯かぬるい湯、もう少し後かななどの本人の希望に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者各人の状態に応じ気持ちよい休息・睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解しており、入居者各人毎に投薬(服薬)管理を行い症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を活かした役割活動、民謡、書道、大正琴等ボランティアさんとの交流等、好きな事への参加やドライブ等外出し気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によって外出し散歩等行っている。又、家族の協力をいただいて外出や外泊等の支援も行っている。	入居者が日常的になじみの店や場所に、あるいは外食や買い物、散歩などに、歩行に困難がある場合には、車や車いすなどを利用して、積極的に出かけられるように支援している。外出行事の中には町民文化祭への出展と参加がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からも、お金に関する要望がない。事業所が小口現金を管理し支払いしている。小遣い金を持っている入居者も一人居らっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をかけたい等の要望はない。家族から電話があった時に本人にも電話で話していただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・共同スペースで適温調整し、加湿器の使用や居室にぬれタオル等を掛けたり、換気にも気を配っている。又、季節感を取り入れた飾り物、花、植物等配慮し居心地良く過ごせるようにしている。	広い娛樂室兼食堂(65.7㎡)を衝立などで区切って、なじみやすいものを置き、気の合った入居者同志と一緒に過ごせるように工夫している。町所有のハウス畑を無料で借り受け、自家菜園作りも楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に食堂、娛樂室、居間、ベンチ等独りになれたり、他の利用者同士で過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお話してできるだけ、馴染みの物を持ってきていただけるようにしている。	家族には本人のなじみの物を持ってきてもらえるように働きかけており、入居者は家族や職員の協力を得て、自己に適した居室(12.7㎡)を作っている。それぞれの居室ではプライバシーが守られ、自然の音や香りが入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室と居室の間にトイレを配置したり各居室室内に洗面所があり、自立した生活へ向けての支援を行っている。手すり等の設置や建物内部バリアフリーであり安全面に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	社会福祉法人 南郷福祉法人
事業所名	グループホーム みのりの家 ユニット名すみれ棟
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地
自己評価作成日	平成 22年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成22年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ファミリーディや夏祭り、敬老式典、忘年会等への参加のお誘いを積極的に行っている。行事後の食事会では、職員手作りの料理を用意し、利用者と家族の団欒に好評を得ており、参加者数も増えている。</p> <p>・法人でISOを取得し、各種のマニュアルやアンケートの実施で、より良いサービスの質の向上に努めている。</p> <p>・同施設内には病院があり、利用者や家族にも安心して頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧南郷町の町民有志が創設した(社福)南郷福祉会が、5番目の事業所として当ホームを開設した。事業運営はその開設の経緯が示す通り、地域社会とは密接な関係を保っている。同敷地内にある美里町立南郷病院は、入居者の健康の支えであり、家族の安心でもある。さらに最近、無償で町から町有地のハウス畑の提供を受け、入居者と職員が協働で夏野菜(キュウリ、トマト、枝豆等)やさつま芋等の野菜づくりに励んでいる。そのことが入居者の健康維持や職員との対話の機会の増加となり、さらには新鮮な食材の収穫と摂取は、入居者の楽しみと喜びになっている。入居者が自己表出の機会として町民文化祭に自分たちの作品を出展している。法人全体としてISO9001:2008(国際標準化機構の品質管理08年度版)を継続的に取得している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームみのりの家**)「ユニット名 **すみれ棟**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議で職員の意見を聞き理念を作成し実践に向かっている。	本年2月に、ホームのすべての職員で話し合っ「地域生活の継続と地域社会との関係の強化」をうたった、独自の新しい「理念」を策定している。日々のサービスの提供に当たっては、その理念を活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭等に出展参加し、地域交流を心がけている。地域ボランティアとの交流や喫茶店への外出をしている。	入居者が近くの幼稚園や小学校、高等学校、町内会の行事などに参加し、ホームの行事に幼稚園児や児童生徒、地元の住民の方々が参加している。年に3、4回発行している法人の広報紙「いなほ」を旧南郷町の全世帯に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして講演依頼に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の率直な意見を真摯に受け止め実践している。	会議を過去1年に4回開催している(いずれの会議にも町職員が参加)。会議は、ホームからの事業の報告や施策の提起と参加者(入居者の家族を含む)からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営し、サービスの向上に活かしている。	会議は2か月に1回以上(年に6回以上)開催して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括と他地域にあるということで、デメリットがあるが、もっと積極的に協力しあいたいと思う。	行政担当者と常に話し合いや相談の機会を持っている。最近は増築(8床x2ユニットから9床x2ユニットへの拡張)や防火用スプリンクラーの設置に係る助成について相談している。近在の老人の救急避難所に指定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め身体拘束をしていない。ベッド柵、車椅子使用についても、各利用者の状況を全職員で話し合い家族に相談し各利用者に合わせている。	管理者は身体拘束は高齢者虐待である事を理解している。『身体拘束ゼロの手引き』について職員全員で話し合い緊急三原則についても理解している。玄関は施錠せず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修等を通じ学んでいる。心身の状況に注意し記録し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度利用者はいないが、順をおって研修し報告する機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の都度文書にて報告している。契約時は重要事項、運営規定の説明、契約書の内容を確認いただき捺印されている。契約の締結、解約時は不安や疑問点を尋ね応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の集いの実施で家族間の交流、運営推進会議にて地域社会や法人運営者との意見交換をし運営に役立てている。随時面会時や電話等で得た情報を共有しケアプランに反映させている。	家族会はないが、家族同志の交流を兼ねた集いを年に3回開催して意見を聞いたり、家族を対象にアンケートを実施して希望や意見を聞いたりしている。アンケートの結果からは家族と職員間の意思疎通のよさがうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ISO会議等で職員の提案等聞く機会を設けている。例)改装における要望等	全体会議などで職員の意見を聞き、事業の運営に役立てている。職員から改装に関して、相談室の洋式化やサンルームの設置などの提案が寄せられている。国家資格の取得者には手当の増給がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得すると資格手当がついたり等、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を多く確保していただき、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と交流する機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を行いこれまでの生活歴等を家族に書いていただいている。本人の不安や要望に耳を傾け心が和むように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に日常の様子や行動を話し、以前の生活情報を聴きやすくしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1日の流れに表情、行動、言動を詳細に全職員が記入し情報を共有し、その時の必要な支援対応(暫定プランも含む)に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より「お互い様」「ありがとう」の気持ちと言葉を大切にしており、より意識するよう運営方針にもいれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加頂くだけでなく、率先してアトラクションや浴衣の着付け、手料理の持ち寄りといった参加も頂いている。また家族の集いで提案されたハウスの耕作作業等をして頂いた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て外出したり、友人の来訪を歓迎している。	職員は本人がこれまでに培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、本人が知人や友人、商店などつきあいを続けられるように支援している。外出や外泊、行事への参加などに家族の協力がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	民謡を歌ったり手足の運動を行い、皆さんと一緒に過ごせるような環境づくりと空間の共有を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院先を見舞い家族や本人の様子を伺ったり、亡くなった際には、利用いただいていた時の様子を家族とともに偲びながら心のケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動を共にし本人の立場に近づけるよう心がけ、何を希望し求めているのか、知る機会を持つようにしている。	職員は本人が入居する前に、必ず自宅を訪問して「実態調査」を実施し、本人の思いや暮らし方、希望や意向の把握に努めている。また、本人との意思疎通が困難な場合には家族などを交えて、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会等に本人の日常の様子を話し、家族から、これまでの暮らし方や、生活環境についての情報を得られるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の心身の状態様子を個別に記録し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録等でモニタリングを行い、定期また状態変化時は随時会議を行い、活発な意見交換をしケアプランを作成している。	「実態調査」や入居後に收拾した情報を元に、本人の介護に関わってきたホーム以外の関係者の意見も取り入れ、すべての職員で話し合って介護計画を作成している。介護計画は個人別課題別に毎日チェックし、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容を毎日チェックできるよう「ケアプランチェック表」を作成し情報の共有やモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢や重度認知に合わせ、協力病院が同じ敷地内にあることを活かし、定期に訪問診療や通院を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町民文化祭へ出展のため職員と一緒に作品作成したり、町所有のハウスを提供いただき、作物を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と相談しながら、協力病院以外でも、家族の希望や本人の状態に合わせた、専門病院に受診している。	協力医療機関への月に一度の定期通院で、日頃の健康状態を把握してもらい、必要な医療行為を受けている。また、他の専門病院とも良好な関係を築いている。非常勤の看護師にも日々の状態を報告し、相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、状態を相談報告し、指示を受け必要に応じては看護処置、病院受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し、病棟の看護師に情報提供している。退院時は家族、病院、ホームが話し合いホーム生活を安心して送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退院時等状態の変化をモニタリング、会議、ケアプランを通じ、現在の状態を説明した上で、今後の方針を共有している。	このホームは入居者が重体に陥ったり、終末期を迎える場合の方針(関係書類を含む)を成文化している。しかし、臨終期には医師の指示で隣接する病院に搬送しているの、職員は「最期の看取り」を経験したことがない。	取り組みの一層の前進を、心から期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は併設施設職員の応援要請体制が整っている。また、法人職員全員が救急救命講習を終了している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者職員が昼夜それぞれ想定した防災訓練を防災関係者や消防職員(*年1回)立ち会いのもと行っている。	災害対策マニュアルを作成して職員に周知徹底している。地域住民に参加を呼びかけ、併施設と合同で年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。非常用食糧と飲料水、非常用備品及び生活用水を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇とマナーについて全職員の個人別目標にしかつ事業所の目標にもなっている為、常に意識して対応している。	職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の了解を得て居室に出入りしている。職員の言葉かけ、接遇態度などは適切であり、入居者はのびやかに過ごしている。個人の記録やメモなどは人目につかないように保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目の動き、表情、行動言動の原因に着目し個別にあった、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「朝起きて、美味しく食事しお茶を飲んで、気持ちよく眠る」生活のリズムを保ちながら、個別支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の意思決定が出来る場合は、意思を尊重し周りへの配慮を心がける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「みんなで食べるからなんでも美味しいね」と食事の雰囲気大切にしながら、やりたいこと、出来る事に配慮して、食事の準備や気持ちよく協力して片づけが出来るようにしている。	職員は入居者の力を活かしながら、一緒に買い物、下ごしらえ、調理、後片付けを行っている。食事には旬のもの、新鮮なもの、入居者の嗜好も取り入れて提供している。入居者と職員が同じ食卓で、同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に血液検査で栄養状態を把握しかりつけ医師と管理栄養士指導のもと、個別に栄養バランスを確保したり、排泄や病歴に合わせた水分、食事量を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別能力に応じた、口腔ケアを朝夕実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別パターンを把握して誘導している。失禁には、自信喪失ならぬよう、個別にあった声かけをしている。	排泄点検表などを利用して入居者の排泄の仕方を把握し、個別に適切な誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。おむつの着用者はいないし、自立排泄の度合いが高くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝茶を入れたり、水が飲める工夫、手足の運動など個々に応じた働きかけをし予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂、熱いのやぬるいの、今でなく後から等希望に応じている。入浴は希望あって、体調よければ全員毎日可能になっている。	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みに合わせて、毎日でも入浴できるように支援している(毎日入浴している人がいる)。一番風呂、熱い湯かぬるい湯、もう少し後からなどの本人の希望に合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は決まっておらず、個別状況になっている。口腔ケア以外は就寝時も生活週間を尊重し、また入眠は概ね21時まで出来るよう声かけ、介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の管理指導のもと、目的副作用、用法、用量を理解し、日々服薬における状態の変化を個別に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	満足のいく役割を行い自信をもって生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し家族への働きかけをしたり、外泊日数は家族の希望通りにしている。	入居者が日常的になじみの店や場所に、あるいは外食や買い物、散歩などに、歩行に困難がある場合には、車や車いすなどを利用して、積極的に出かけられるように支援している。外出行事の中には町民文化祭への出展と参加がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事に不安を感じたり、個別にはお金の有無にこだわらず、生活されている。所持する希望があれば、対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙は本人のよい印象になるよう手渡ししている。職員、家族間での電話連絡時は本人に代わり会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の調節、娯楽環境音の統一、斜光や照明の調節、トイレや居室の換気等で不快にならない様配慮している。調理中の音や、匂いは生活感をもって楽しんでいただいている。	広い娯楽室兼食堂(65.7㎡)を衝立などで区切って、なじみやすいものを置き、気の合った入居者同士と一緒に過ごせるように工夫している。町所有のハウス畑を無料で借り受け、自家菜園作りも楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	床暖のフローリングに畳をひいたり、コの字にソファを置いたり、眺めの良い場所を提供したり、共同空間の居場所の大切さは、本人の存在を表すものとして認識している。空間の共有を心地良くできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居予定時より常になじみのものを、居室空間の限り持参頂けるよう声掛けしている。	家族には本人のなじみの物を持ってきてもらえるように働きかけており、入居者は家族や職員の協力を得て、自己に適した居室(12.7㎡)を作っている。それぞれの居室ではプライバシーが守られ、自然の音や香りが入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その場その場で「できること」「わかること」把握し本人がしたい事となるよう段取りをしている。		